

微生物検査とは



熱や咳、下痢などの症状を引き起こして、患者様を苦しめている微生物を見つけ、どんな薬が効くかを調べる検査です。

微生物には、細菌、ウイルス、寄生虫、カビなどがあります。

微生物検査の流れ

1. 塗抹検査

患者様から届けられた痰や尿、膿などの検査物（検体）をスライドガラスに塗り付け、いろいろな色素で染色し、顕微鏡（1000倍）で観察することで患者様の病態や、病原微生物を推定します。

特徴的な微生物（肺炎球菌、カンピロバクター、ピロリ菌等）であれば、30分程度で診断できることがあります。

2. 培養・同定検査

検体を適当な培地に塗って37℃で培養します。普段は目に見えない細菌ですが、一晩の培養で1個の菌が直径1～2mmの細菌の集落（コロニー）を作ります。このコロニーの形態・色・接種した培地への反応などを総合的に判断し、感染を起していると考えられる病原菌の名前を突き止めることを同定検査といいます。この検査には、2～3日かかります。

※結核菌は発育が遅いため、6週間まで培地の観察を続けます。

3. 薬剤感受性検査

培養によって検出された病原微生物に対して、どの抗生物質が効くかを調べる検査です。こちらは病原微生物が特定されてからさらに1日かかります。

正しい検査のために

痰は、唾液が混じらないようによくうがいをしてから、黄色い痰を出すようにご協力をお願いします。また、痰、尿、便等すべての検体は室温に長時間放置しますと、雑菌が増えてしまい、病原微生物の特定ができなくなるため、ご自宅で採取された場合は冷蔵庫に置き、24時間以内に提出して下さい。



微生物検査のあれこれ Q&A よくある質問にお答えします

Q：どうしても痰が出せません。

A：痰が出やすくなる薬を処方したり、やわらかい管で吸引して痰を採る方法もあります。主治医にご相談ください。

Q：検査にはどのくらいの量の検体が必要ですか？

A：検査項目によっても異なりますが、痰の場合は、黄色い膿性の痰であれば親指の先程度あれば検査可能です。さらさらとした透明の痰しか出ない場合は、なるべく多くの痰を出して下さい。十分な量がとれているか心配な場合は、13番臨床検査受付までお声かけください。

Q：自宅から病院まで遠いのですが、常温のまま持ってきてもいいですか？

A：冬季など外気温が低い場合は常温でも構いません。夏季など外気温が高い場合はなるべく保冷剤等と一緒に持ってきてください。

